

千葉都市モノレール 中期経営計画

平成23年度～25年度(3ヶ年)

中期経営計画の基本方針

千葉モノレールを取り巻く環境

- ◆ 千城台エリアの人口減少と相まって、今後の少子・高齢化の進展、更には他交通機関との路線の競合など、モノレール利用者の減少が懸念されます。
- ◆ シャッター化が進む商店街や低迷する観光施設など停滞する地域経済の活性化が求められており、地域経済活動を支える日常生活の足としての千葉モノレールの役割は大きなものとなっています。
- ◆ 安全で安定した輸送を確保するため、老朽化した設備の計画的な更新が求められています。



キーワード 『つなぐ、めぐる、つどう』

今後の経営戦略

日中、土日祝日の
旅客の確保

社外、お客様への
情報発信の強化

設備更新への
着実な対応

活動目標

- 市民生活の足としての千葉モノレールを、更に利用して楽しい駅や車両にするために、沿線の団体や住民と協働し、駅空間や車両及び地域観光資源を活用してまいります。
- 地域とのコミュニケーションを大切にし、更に地域に根ざした千葉モノレール、地域とともに発展する千葉モノレールを目指します。
- 安全で快適なサービスを確保するため、車両や運行に係る諸設備の更新を着実に進めてまいります。

活動計画(平成23年度～平成25年度)

I. モノレール応援隊

沿線住民の活動拠点として無人駅を貸し出し、住民活動の傍らモノレール応援隊として簡易な業務を代行していただきます。

II. 新型車両の活用

新型車両5編成を導入。懸垂型モノレールの特長を生かし、通勤車両としてだけでなく観光車両としても活用します。

III. パーク&ライド事業

モノレール駅周辺でパーク&ライドとして活用可能な土地を駐車場として整備されるよう関係者間の調整を行います。

IV. 駅構内を活用した若者イベント等の連続開催

駅空間を若い演奏家、芸人等にパフォーマンス会場として無料提供します。

V. 支柱等インフラ部を活用した広告掲出

千葉市所有のモノレール支柱等インフラ施設を広告媒体として活用していきます。

VI. 沿線施設・企業・団体等との関係強化

沿線観光施設・事業者・沿線学校等との連携を強化し、モノレールを活用した連携事業やイベント等を実施します。

VII. 駅設備のユニバーサルデザイン推進

大学の研究グループと共同で駅構内の動線や設備をユニバーサルデザインの視点から総点検し、誰もが利用しやすい駅とします。

VIII. 安全・サービスに係る諸設備の更新

自動列車制御装置(ATC/TD)、列車無線装置、駅務機器等の設備更新を計画的に進めていきます。

次期活動計画

1 駅舎内及び駅周辺土地を活用した多角経営

2 千葉モノレールブランドデザインの構築

3 自転車持ち込み優先列車の運行

4 買物電車

5 モノレール&コミュニティサイクル

6 送迎・観光バス&モノレール

7 子育て支援・育児支援

経営収支計画 (平成23年度～平成25年度)

【損益収支計画】

項 目	34期	35期	36期	(単位:百万円) H23～H25
	H23年度 2011	H24年度 2012	H25年度 2013	
営業収入	3,058	3,140	3,140	9,338
営業費	2,885	2,628	2,771	8,284
営業損益	172	512	369	1,053
営業外損益	-22	-24	-16	-62
経常損益	150	488	353	991
特別損失	0	0	0	0
税引前当期損益	150	488	353	991
法人税等	1	1	1	3
当期損益	150	487	352	989

【資金収支計画】

項 目	34期	35期	36期	(単位:百万円) H23～H25
	H23年度 2011	H24年度 2012	H25年度 2013	
収入計	3,140	3,209	3,299	9,648
支出計	3,764	4,329	3,462	11,555
単年度資金過不足	-624	-1,119	-163	-1,906
前期繰越	3,740	3,116	1,997	
資金残高	3,116	1,997	1,834	